

この人を訪ねて #246

住職と園長の一ノ刀流を「なす」

西楽寺住職・井口ルンビニー幼稚園 園長

笠 佳貴(たかむら よしき)さん 46歳

名刹 西楽寺の子女と婚姻し、住職と同寺が運営する井口ルンビニー幼稚園の園長をも継職。大学卒業後一時民間企業に就くも、仏道に帰依。人望も厚く無類の子ども好きで、「一刀流」を「なして」いる。

新住職のお披露目

十九世住職退任・第十七世住職継職の奉呈法が執り行われた。正式に住職になられた人が、今回のインタビューに応じてもうつた筆 佳貴(たかむら よしき)さんである。

筆さんは2021年(令和3年)4月、義父 笠 壱(たかむら せんじ)以下(龍住職)さんから住職を継承してい

たが、「ロナ禍のため、やむを得ず継職法要が延期され

ていた。幸いロナ禍も鎮まり、今年は親鸞聖人誕生850年・立教開宗800年の節にあたるため、前住職か

らの奉告(お披露目)法要が行われた。

なお本紙では2005年(平成17年・第2403・#2403)前

住職 竜(たつ)さんのインタビューを行っている。また2022年(令和4年・第463・#2410)で義弟の至徳ルンビニー幼稚園(西区・草津町)園長小林裕侍さんもインタビューを行っている。

父親 龍(たつ)さんが西本願寺に勤務していた」とから、

筆さんと妻さんは、1970年(昭和45年)6月、京都

市で生まれ。小学校一年生のとき、実家の寺の住職であ

った祖父が亡くなり、父親が繼ぐことになり、実家「正

光寺」がある広島県・神石郡神石高原町に「帰郷」した。

中学生・高等学校は福山市にある中高一貫校である福

山英数学館へ地元から通つた。東京国際大学人間社会

学部社会文化学科を2001年卒業。すぐさま「ジユエリ

ー(宝石)」の素材を加工製造し卸業をする民間企業に

就職した。兄が実家の寺を継ぎ、次男である佳貴さんは

自由にしてよろこび満々一人で話していた。* (本紙は結婚まで住職さんと記す)

元広島カープ梵 英心選手とはまたいと

元広島カープ選手で、現オーロラズ打撃コーチの梵

英心さんは、お寺は三次市にある「専法寺」の次弟で、

一才年上のまたいとに当たる。

学生時代、佳貴さんは近所の夫婦が宮の小料理兼居

酒屋で、最初は客として通っていたが、「いつの間にか

筆さんはお寺の勤め(つとめ)

夜間にアルバイトとして働いていました。厨房(くりや)にも入

らせてもらい得意料理は、チャーハンですが…(笑)」。

自分は寺の子 仏道に進む決心を

三年余り勤めたところで、佳貴さんは心遣(こころごと)か

つた。「大学を卒業したら、仏教の道を行ってはどうか

かと、父からの勧めがあったが、若気のいたりか決め

られたレールに乗るよりは、自分で道を開きたい

と、民間企業にはじめたのです」しかしあるとき「勤め

てみて、いろいろ経験をしたが、もう一度考(かんが)え

てみたところ、父からの助言もあり、自分は寺の子であり、父親

の背中を見ていれば、寺の道はしたけれど、仏道へ

進もうと決心しました」と僧侶として生きの決断をし

たことを語る。

京都にある浄土真宗系の中央仏教学院の一年制コ

ースに入学し、仏教の基礎から学んだ。(こ)では龍谷大学

を出ていた人たちも在籍しており、大学では習わない基本

的な儀式、作法などを観察する。また在学生には年齢的

に幅があり、一般の人で定年退職、僧侶をはじめとする

人もいたという。さらに勸式(くじき)指導所に一年在

籍し、僧侶の寺で行う勸式作法のお勤め、法要、仏事や

布教(ふきょう)のやり方などを学んだ。

お見合いの話が舞い込んだ

仏道に帰依した佳貴さんは、職員として京都・東山区

にある親鸞聖人の墓所として由緒ある「大谷本廟」に

2007年立成28年に勤めることになった。ところが、

筆さんは「お見合いの話が舞い

込んだ」と語る。

筆さんは「お見合いの話が舞い込んだ」と語る。

筆さんは「お見合いの話が舞い込んだ」と語る。